

## 厚生科学研究・家庭総合研究事業

### 「小児糖尿病・生活習慣病の発症要因、治療、予防に関する研究」

小児慢性特定疾患治療研究給付申請書及び学校検尿報告からみた小児 NIDDM

研究協力者：国立療養所三重病院小児科 増田英成

#### 1.研究の目的

小児期発症 NIDDM の発症率を明らかにするため、基礎検討として現在我々が利用可能と考えられる小児慢性特定疾患治療研究給付申請書及び学校検尿報告の二つのソースから NIDDM 児を抽出し、各調査から得られる情報、結果について検討する。

#### 2.対症及び方法

三重県各保健所に依頼し、小児慢性特定疾患治療研究給付申請登録台帳に登録された糖尿病患者数を把握した。また、平成 5 年、平成 6 年度実施の三重県学校検尿結果報告書を閲覧し、2 つの情報源からのデータを比較した。学校検尿結果はイニシャル、または名前はプライバシー保護のため消去してあるものがあり、個人特定は困難であった。

#### 3.結果及び考察

1) 図 1 は 1989 年～1995 年までの三重県に於ける小児慢性特定疾患治療研究費申請から得られた IDDM、NIDDM の新規発症数の推移を示したものである。年間 2～7 例の症例の登録がある。平成 5 年度、及び平成 6 年度は三重県では各 5 名の新規発症 NIDDM が登録されていた。平成 5 年度、平成 6 年度の学校検尿報告書との比較を行ったところ、学校検尿から特定された NIDDM 患者は各 3 名で、ともに小児慢性特定疾患医療給付申請を行ってはいなかった。三重県では平成 5、6 年度とも計 8 名の NIDDM の発症が確認されたが、このうち 37.5%は小児慢性特定疾患医療給付申請登録がなさされておらず、NIDDM では漏れがかなり存在することが判明した。

2) 三重県学校検尿の平成 6 年度受診者数は 248221 名で、このうち 1352 名が一次精密検査要と判定されたが実際の一次精密検査受診者数は 1041 名であり受診率 77.0%であった。例年受診率は 70～80%と報告されている。つまり 20～30%はこの段階で脱落することになる。この後の高次精密検査ではやはり 20～30%の脱落例があると云われている。

平成 5 年度、平成 6 年度学校検尿精密検査結果に関しては第一次～第三次精密検査結果調査表を閲覧することが可能であったため、尿糖陽性者について抽出を試みた。各年度ともに 3 名の NIDDM 患者を確認することができた。しかし、この計 6 名は、ともに小児慢性特定疾患給付申請が行われておらず、内科開業医で経過観察されたものであった。

以上のことから、小児 NIDDM 発症率を推定するには小児慢性特定疾患治療研究給付申請書をベースとして学校検尿データを組み合わせ検討することが実際的と考えられるが、両ソースからの脱落例があり、これを考慮した解析が必要であると考えられた。

#### 4.今後の研究計画

- 1.三重県に於ける学校検尿尿糖スクリーニングシステムの確立
- 2.小児慢性特定疾患医療給付申請書の継続的閲覧許可及び主治医へのアプローチに対する同意の取得

が必要であり、現在、関係各所に対応を依頼しているところである。

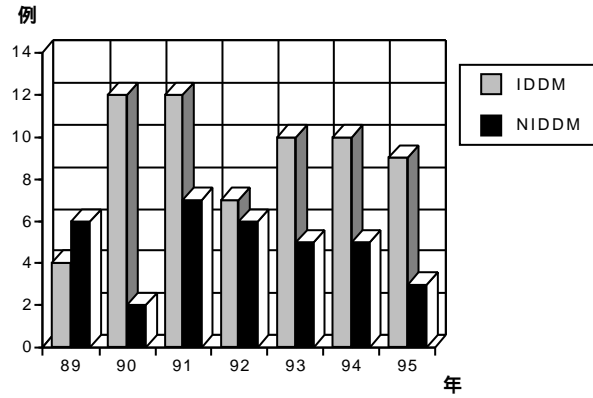


図1 三重県に於ける小児慢性特定疾患治療研究費糖尿病申請数推移